



# 日中友好を未来へつなぐ ～現地理理解教育の推進～

上海日本人学校虹橋校 校長 松浪 治

## 上海日本人学校の概要

上海日本人学校の起こりは、1975年、総領事館の一室を借用しての「上海補習学校」(児童生徒数7名)開設に始まります。

文部科学省から正式に日本人学校として認定されたのは1987年4月で、児童生徒数61名のスタートでした。1996年には虹橋校の開校、2006年には増え続ける児童生徒を受け入れるため浦東校が新たに開設されました。2011年には、日本人学校では初となる高等部が設置され、来年度、上海日本人学校は創立30周年の節目を迎えます。

このような変遷を経て、世界有数の大規模日本人学校として歩みを進めてきましたが、在籍者数は2013年の3175名をピークとしてそれ以降、減少傾向にあり、4月現在、3校合わせての合計は2603名となっています。

## 虹橋(ホンチャオ)校の現状

今年度虹橋校は、児童数1301名、学級数47(特別支援学級1)でスタートしました。小学1～6年生が在籍する本校は、近年、高学年児童数の減少と多文化児童の増

加傾向がみられます。子どもたちは、登下校時に元気な声で挨拶をし、休み時間には天然芝の運動場を駆け回ります。授業時間には真剣な態度で学習に臨み、特別活動では6年生をリーダーとして力強いまとまりを見せてくれます。以下、かけがえのない今を上海の地で暮らす子どもたちの、現地理理解教育の一端をご紹介します。



225名の新入生「1年生を迎える会」

児童数の推移	
平成23年度	1433名
平成24年度	1568名
平成25年度	1538名
平成26年度	1412名
特別支援学級	
1学級で在籍数7名、担任3名。平成21年度に開設。	

## 現地理理解教育の実際

### ①上海「人と文化と歴史」

#### ●中国語を学ぶ

全学年週1時間(年間約35時

間)、習熟度別学習(初級、中級1・2、上級)で学校直接雇用の中国語教師5名が指導しています。初めて中国語に出会う子も中国語を日常会話として使えるレベルの子も、中国人の語学教師の楽しく工夫を凝らした授業に引き込まれていきます。3学期には中国語学習発表会を実施し、中国語による歌や詩の暗唱、早口言葉やショートコントなどに取り組みます。多彩な角度から中国語に慣れ親しむ活動となっています。

#### ●中国文化に出会う

「総合的な学習の時間」と位置づけられる「チャレンジタイム」では、学年PTAとの連携により中国の伝統文化に触れる異文化体験活動を実施しています。学年ごとにテーマを決め、影絵、雑技、京面づくり、獅子舞・龍舞、カンフー等、演者



3年生のチャレンジ活動「龍舞」

と語り合ったり対象物を手に取ったりして体験する活動を行っています。年に1回の活動ですが、どの学年の内容も素晴らしく、子どもたちからも絶賛の声が聞かれます。PTA役員の皆さんのご尽力に頭が下がります。

#### ●人とかかわる

呉溪第三小学とは10年以上の交流を続けており、子ども同士の交流とともに、時には職員間も相互交流をしています。日新実験小学を加えた2校とは入学式や卒業式に来賓として校長を招きあい、これら両校も本校の卒業式の一部形式を取り入れる等、積極的に教育活動の充実に寄与しあう取り組みを推進しています。児童の交流活動と共に校長同士の信頼関係を深めながら、相互の友好関係促進を図っています。

上海小学、虹橋中心小学、上海市虹橋中学、協和双語実験小学、上海市実験学校等、これまで培ってきた交流校とのかかわりを今後も大切にしていきたいと考えています。



4年生の呉溪第三小学との訪問交流

#### ●歴史を知る

今年度の6年生の修学旅行は首都「北京」を訪ねました。2泊3日の日程で、天壇公園、万里の長城、景山公園、胡同、天安門広場、故宮博物院等、中国悠久の歴史に浸



快晴の天壇公園(6年生の修学旅行)

る旅となりました。

また、5年生の宿泊学習は「東方緑舟」で行い、世界最古の手漕ぎ船「ドラゴンボート」を漕ぎ、金山農民画村で農民画の絵付け体験に取り組みました。

さらに上海博物館見学、消防署や清掃工場の見学、学校近辺の町探検等によって、上海市の移り変わりや現状の姿を学び、過去から現在への歴史を児童自身が体感することにつながっています。

#### ●暮らしにふれる

年間9回実施するクラブ活動にも、中国ゴマや中国将棋、中国茶や中国結び等を体験する活動を組み入れています。熱心に中国の文化活動にふれる子どもたちの姿から、現地の暮らしを理解する土壌が育まれているように感じます。



中国茶を講師から学ぶクラブ活動

### ②推進上の課題

#### ●安全の確保

学校全体はもとより、学年単位

で活動する場合にも、200名を超える児童が海外の特別な事情を考慮しながら、時には政治的な事情や、または大気汚染といった環境的な事情等にも左右されながら取り組む必要があります。当然、その場合のキーワードは「安心と安全の確保」ということが大前提となります。

#### ●人材の確保

異なる文化と出会い、それを受け入れ理解する場合に最も重要な役割を果たすのが人との交わりであり、人からの導きです。中国語教師やボランティアの確保、交流校との渉外を円滑に進めることが現地理理解教育推進への大きなポイントとなります。

## まとめ

上海日本人学校虹橋校では、小学1年生から6年生までの約1300名が、児童期という人生の基礎を養う重要な時期に、ここ上海の地で学び、活動しています。在籍児童の実態として、上海に生活基盤を持ち長く在住している子もいれば、日本全国各地から保護者とともに中国へ渡り、その滞在期間も数か月から3年未満、またそれ以上とさまざまです。

多感なこの時期に海外で暮らす子どもたちは、あらゆる方面で異なる文化を吸収し、自己を実現していく過程にあります。子どもたちが、上海で暮らした経験を大きな宝として人生を歩むことを期待して、本稿のまとめにしたいと思います。